

### 燕労災病院の理念

◎働く人々と、地域の人々  
のために最善の医療を  
目指します。

### 病院の基本方針

◎安全で質の高い医療の  
提供を目ざします。

◎勤労者の健康管理を支  
援します。

◎医療に関する教育・研修  
を支援します。

◎地域の人々の健康を守  
り、福祉に寄与します。

### 目次:

*巻頭言:「震災前と震災 後」	1
*医師交代について *看護ふれあいフェア予定	2
*市民医学講話開催 *医療安全研修開催	3
*編集部より	3
*外来診療科別担当医師表	4

# 燕ろうさいつうしん

## 【震災前と震災後】

燕労災病院副院長 小田 純一

今から47年前新潟地震があった時、私は小学校6年生だったが、その地震後新潟近辺では、「あれば地震前のことだったかね」、「いや、地震後だったと思うよ」というのが、いろいろな出来事の時期について話し合う際の決まり文句になっていたように思う。人は、このように強く印象に残ったことを区切りとして記憶するものだが、この3月11日に起こった東日本大震災は、日本中の人々の記憶に、このような区切りとして長く残ることだろう。



私たちの病院にも、被災して県央地域に避難してきている人たちの一部の方が、体調をくずされて受診されたり、入院されたりしている。そのような方を見るたびに、今回の震災がいかに悲惨なものだったのかを実感し、その影響の大きさを考えずにはいられない。

今回の震災はその範囲の広さだけでなく、原発損壊による放射能汚染や電力不足、種々の物不足など、付随して発生してきた事がらが多岐にわたっていることから、私たち日本人に多くの問題をつきつけてきている。特に原発については、高層ビルが建ち並びその冷暖房に多量のエネルギーを消費し、多くの広告塔がきらめく東京に電力を送るために、なんで福島や新潟の柏崎といったところに原発を作らなくてはいけないのだろう、とってしまう。多くの富が東京から生み出され、その富が地方を支えているのだということは理屈では理解できるが、原発周辺地域から着の身着のまま避難してきた人たちをみると、何か割り切れないものを感じてしまう。日本にはいつから、東京と地方という奴隷制度のような体制ができてしまったのだろう。

いずれにしてもこの機会に、私たちの今までの生活スタイルや考え方、人と人とのつながり、自然とのつきあい方、エネルギーや産業のあり方など、いろいろなことを考え直さなければいけないように思う。正しい答えがあるのかどうかさえわからない問題ばかりだが、願わくば、「震災前はあるなだったけど、震災後はこんなふうないい世の中になりました」と、今回犠牲になられた2万人を超える方々に報告できるような社会にしたいものである。

この震災が記憶の区切りだけでなく、世の中のそして時代の区切りになることを切に望むとともに、そうしなくては犠牲になられた方々に申し訳がたたない、と思っている。

## 【お知らせ1】 医師交代について

下記の通り医師が交代します。診療日程は4ページをご参照下さい。

### 平成23年4月1日付採用医師

脳神経外科	吉田	誠一
外科	清水	孝王
消化器内科	上村	博輝
神経内科	有泉	優子
神経内科	佐藤	大介
外科医師	沢津橋	孝拓

### 平成23年3月31日付退職医師

消化器内科	遠藤	新作
脳神経外科	大野	秀子
神経内科	梅田	能生
神経内科	石川	正典
外科	下田	傑



## 【お知らせ2】 ～看護ふれあいフェア開催予定～

**5月14日（土）9：30～12：00にチャレンジャー「なんじゃ村」前で恒例の看護ふれあいフェアを開催します。**

身長体重測定、血圧測定、骨密度測定、血管年齢測定、AED講習、健康相談等を行います。

5月12日は近代看護の基礎を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日です。看護の心を分かち合いたいと、毎年この時期に開催しております。



今年はミニフリーマーケットを開催します。収益金は被災義援金といたしますので、皆様ぜひおいで下さい。

**皆さん、ぜひ一度、おでかけ下さい！**

### 【お知らせ3】 ～市民勤労者医学講話を開催しました～

3月1日（火）午後6時30分から燕労災病院外来ホールで外科 森岡伸浩医師による医学講話「消化器系のがんについて」を開催しました。

消化器は消化管と消化腺により構成されており、消化器系のがんには、食道がん、胃がん、大腸がん、胆道がん、膵臓がん、肝臓がん等があります。近年、内視鏡を使用した鏡視下手術が広く行われるようになってきました。鏡視下手術はおなかに小さな穴を数か所開け、そこから内視鏡を挿入し、なるべく小さなきずでおなかの手術を行うものです。入院期間が短いため、社会復帰が早いという利点があります。すべての手術が鏡視下で行えるわけではありませんが、当院でも導入しています。また、がんの早期発見・治療のため人間ドックを行っておりますので、ぜひご利用下さいと説明がありました。



当院では、「地域医療を担う」、そして「勤労者医療を推進する」という観点から、地域のみなさんへ医療に関する講演を行っています。

次回の予定は、5月10日（火）神経内科部長菊川医師による「めまいについて」です。午後6時30分から1時間程度予定しています。ご聴講は無料ですので、ぜひお越し下さい。

### 【お知らせ4】 ～医療安全研修を開催しました～

3月15日（火）午後5時30分から燕労災病院会議室で悠遊健康村病院認知症認定看護師 栗和田 直樹氏による「転倒・転落予防 ～せん妄・認知症患者への対応～」を開催しました。

まず、認知症看護を実践することが大事です。認知症看護には次の5つの視点があります。①認知症に対する正しい知識をつける②加齢に伴う身体機能の変化を理解する③基本的要求が満たされるように介助する④安心して過ごせる病棟環境をつくる⑤認知症患者さんの行動に隠された真の要求を得るがあり、本人の立場から理解することが必要です。次に、転倒・転落が多い時間帯や場所に則した効果的かつ効率的な管理を行い、職種間の情報の共有化や職員の意識向上を促すことで転倒・転落予防の道標になると説明されていました。



### 【編集部より】

東日本大震災から1カ月が経ちました。副院長の巻頭言でもありましたが、今回の震災で「人と人」、「地域との繋がり」が大切だということを改めて感じました。来月、5月14日（土）に「看護ふれあいフェア」をチャレンジャーで開催します。このような行事を通して、少しでも地域の皆様と繋がり、被災された方々のお力になりたいと思っております。

お近くへお越しの際はぜひ、お立ち寄り下さい。

